シロカネソウ属（キンポウゲ科）品種学名の訂正（大場秀章）
Hideaki OHBA: *Dichocarpum trachyspermum* f. *didymocalyx* (H.Ohba) H.Ohba, comb. nov.

本誌75巻（2000年）にアズマシロカネソウの重弁品について発表した．その後，この重弁品を発見した栃木県在住の松澤篤郎氏から，新たな資料と写真を送付いただき，これがトウゴクサバノオではとのご教示をいただいた．タイプを再検討したところ，この重弁品は松澤氏が指摘する通りトウゴクサバノオに属するものであったので，謹んで学名を訂正したい．

Dichocarpum trachyspermum (Maxim.) W.T.Wang & P.K.Hsiao

f. **didymocalyx** (H.Ohba) H.Ohba, comb. nov.

Dichocarpum nipponicum (Franch.) W.T.Wang & P.K.Hsiao f. *didymocalyx* H.Ohba in J. Jpn. Bot. **75**: 370 (2000).

（東京大学総合研究博物館）

新　刊

□Rajbhandari K. R. and Bhattarai S. **Beautiful Orchids of Nepal** 220 pp. 2001. Authors. Rs. 1200.

ネパールには97属363種のラン科植物が生育していると，この本では言っていて，そのうちの101種が写真と共に紹介されている．

それぞれ1ページに見開きで1種を紹介しているので，使いやすい案内書となっている．写真の質は，ピンボケや退色もあり，書名のとおり「美しい」ランではあっても美しい写真，とは言いがたい何点かがあるが，写真のアングルが非常に適切で，それがほかの欠点を補っている．

殆んどが花の拡大写真で，花の構造が，特に唇弁の特徴がよくとらえられている．実は，これがラン科植物には重要で，日本には「美しい」ランの写真があふれている割に「使える」写真が少ないのは，撮影する側と使う側の意識が足りないためではないかと，この本で再確認させられた．

花のアップだけの写真が多いため，植物体の情報は少ないのが残念だが，一味ちがう，ユニークな案内書として，役に立つと思われる．

それぞれの種についての短い記載も，適切で，花期や生育地の標高もおさえてあるのは，当然とはいえ親切である．ただ，ネパールおよび近隣諸国にまたがる生育地はいいとして，それ以外の地域は確認しているかどうか，全体の分布をおさえているわけでもないようなので，気休め程度と考えたほうがいいと思う．

（中島睦子）

□三橋　博，岡田　稔（監修），和田浩志，寺林　進，近藤健児（編集）：**新訂　原色和漢薬草大図鑑** 822 pp．2002．¥35,000．北隆館．

1988（昭63）年に原色版牧野図鑑シリーズの一つとして本図鑑の初版が刊行されて以来，早や15年が経過した．この間，薬用植物の研究・生産・利用・流通については，大きな進展と変化が見られる．本書は，内外の生薬・民間薬・製薬原料・健康食品原料・化粧品原料植物約1400種を網羅して収載し，全部原色図版をもって，その生態を含めた自然の状態をできるだけ忠実に表現することに努めている．特に，植物学的な外部形態・諸器官の詳細な図解に止まらず，薬用部分の説明を加えて，本書の利用目的に沿う努力が払われている．

各項目の解説として，分布・形態・薬用部分・成分・薬効と薬理・薬用としての使用法が，簡潔ながら要領よく記述されている．この新訂版においては，新しく巻頭に768種に及ぶ生薬の写真早見表が加えられ，番号表示によって容易に本編の原色植物図と対照することができる．また，巻末の薬草使用法，有毒植物一覧表，特に，化学構造式を含めた成